



KL1100



CL1000



CC2000



KN4140v



CN8000

富士通製サーバ「PRIMERGY」および「SPARC Enterprise」と ATEN Over IP KVM スイッチシリーズ および統合管理ソフトウェア CC2000 の接続検証結果

ATEN ジャパン株式会社 技術部

1. 検証概要

ATEN の Over IP KVM スイッチは、「PRIMERGY シリーズ」および「SPARC Enterprise シリーズ」に対応しています。なおかつ統合管理ソフトウェア CC2000 との組み合わせにより、各 Over IP に対応した製品を束ねるだけでなく、VMware ESX/ESXi の vSphere も含め統合管理が可能となります。これらの混在環境にて接続時による動作検証を実施致しました。

2. 検証期間： 2010 年 11 月 29 日～12 月 10 日、2011 年 1 月 7 日～1 月 21 日

3. 検証装置

型番	概要
KL1100M	17" LCD KVM ドロワー、PS/2・USB 対応
CL1000M	17" LCD KVM ドロワー、PS/2 対応
KN4140v	4 ユーザー、マルチ I/F 対応、40 ポート IP リモート KVM スイッチ
CN8000	1 ユーザー、1 ポート IP リモート KVM スイッチ
CC2000	統合管理ソフトウェア

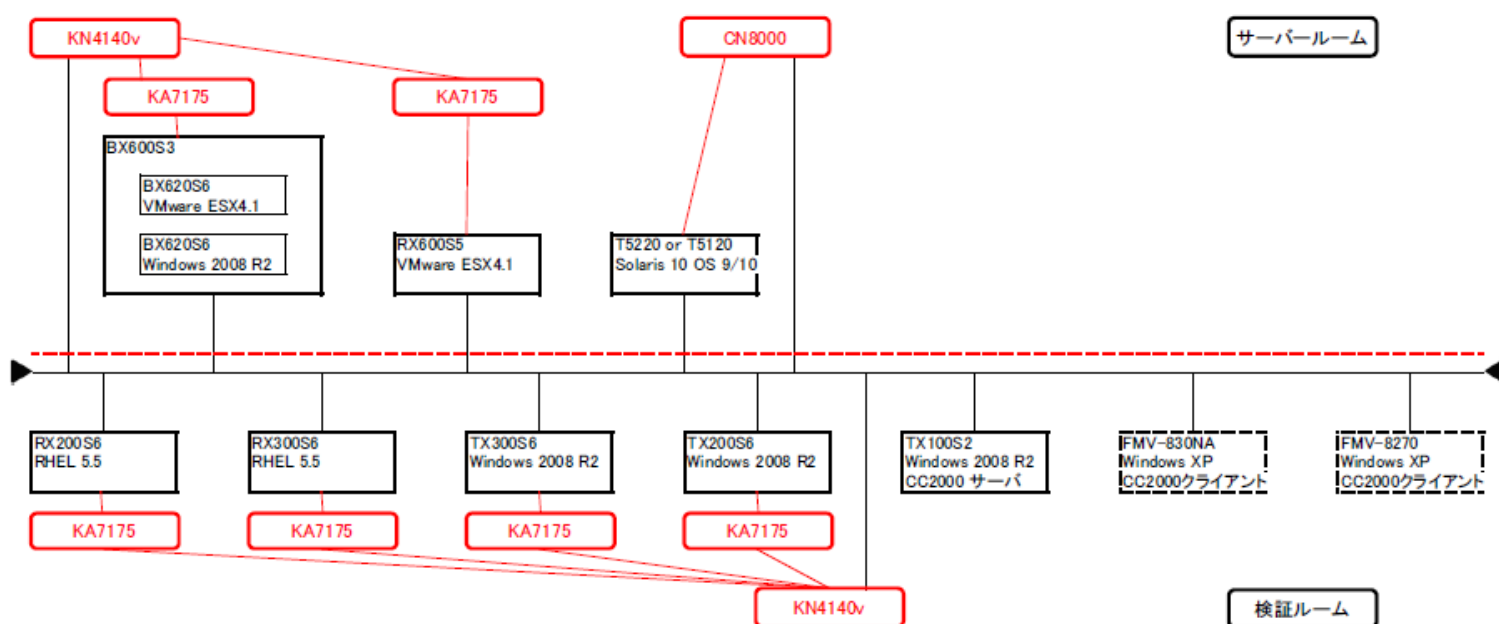
サーバ構成

型番	OS
PRIMERGY BX600S3	VMware ESX4.1
BX620S6	ゲスト:Windows 2008 R2 St ×2
PRIMERGY RX600S5	VMware ESX4.1
	ゲスト:Windows 2008 R2 St ×2
PRIMERGY TX300S6	Windows 2008 R2 St
PRIMERGY RX200S6	Red Hat Enterprise Linux v5.5
PRIMERGY RX300S6	Red Hat Enterprise Linux v5.5
SPARC Enterprise T5120 or T5220	Solaris 10 OS 9/10
PRIMERGY TX200S6	Windows 2008 R2 St
PRIMERGY TX100S2	Windows 2008 R2 Foundation

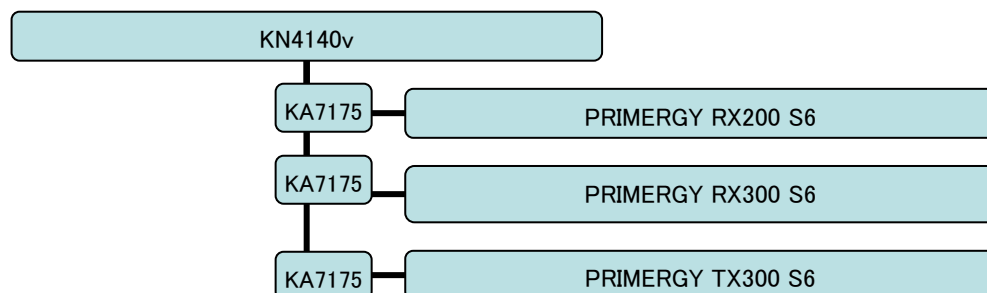
4. 検証項目

- コールドスタート時、ホットスタート時、リブート時、それぞれの動作確認
- 日本語キーボードのキーマップおよびキーコードの整合性
- モニター画面の表示確認
- KVM ドロワー側タッチパッドまたは、KVM スイッチ側マウス動作確認
- IP リモート操作時(KVM 単体時/CC2000 経由時)の A)～D) 同上確認
- バーチャルメディアからのマウント動作確認

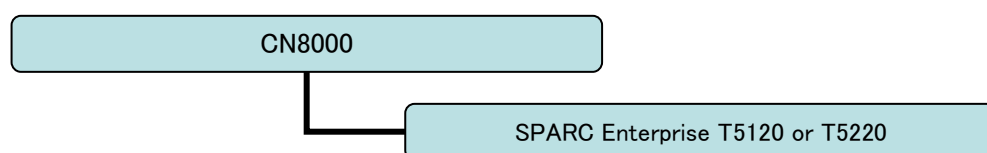
5. 構成図



KN4140v 構成例



CN8000 構成例



6. 接続方法

KN4140v と各サーバに対する接続は、各インターフェースの KVM モジュール経由で接続しますが、KA7175 の USB は PC, Sun, Mac のそれぞれに対応しています。

CN8000 と SPARC Enterprise T5120/T5220 に対する接続は、付属の USB 対応 KVM ケーブルで接続します。

7. 検証結果

A) コールドスタート時、ホットスタート時、リブート時、それぞれの動作確認

・コールドスタート時

サーバ側シャットダウン後に接続されている電源ケーブルを切り離し、しばらく(数十秒～数分)経過後に電源ケーブルを接続し、スタート動作を数回繰り返しました。結果すべて正常動作してりました。

・ホットスタート時

サーバ側に接続されているケーブル類は接続されたまま、シャットダウンとスタート動作を数回繰り返しました。結果すべて正常動作してりました。

・リブート時

サーバ側に対して、リブート動作を数回繰り返しました。結果すべて正常動作してりました。

B) 日本語キーボードのキーマップおよびキーコードの整合性

テキストエディタを起動し、各キーを押し実際に入力される文字とキーマップが正しいことを確認

致しました。

C) モニター画面の表示確認

BIOS/POST 画面、起動時画面の全てを確認し、すべて正常に表示しておりました。

また、GUI 画面時に各設定可能解像度にて稼働時画面、スクリーンセーバー、ブランク (Logout) 画面の全てを確認し、すべて正常に表示しておりました。

D) KVM ドロワー側タッチパッドまたは、KVM スイッチ側マウス動作確認

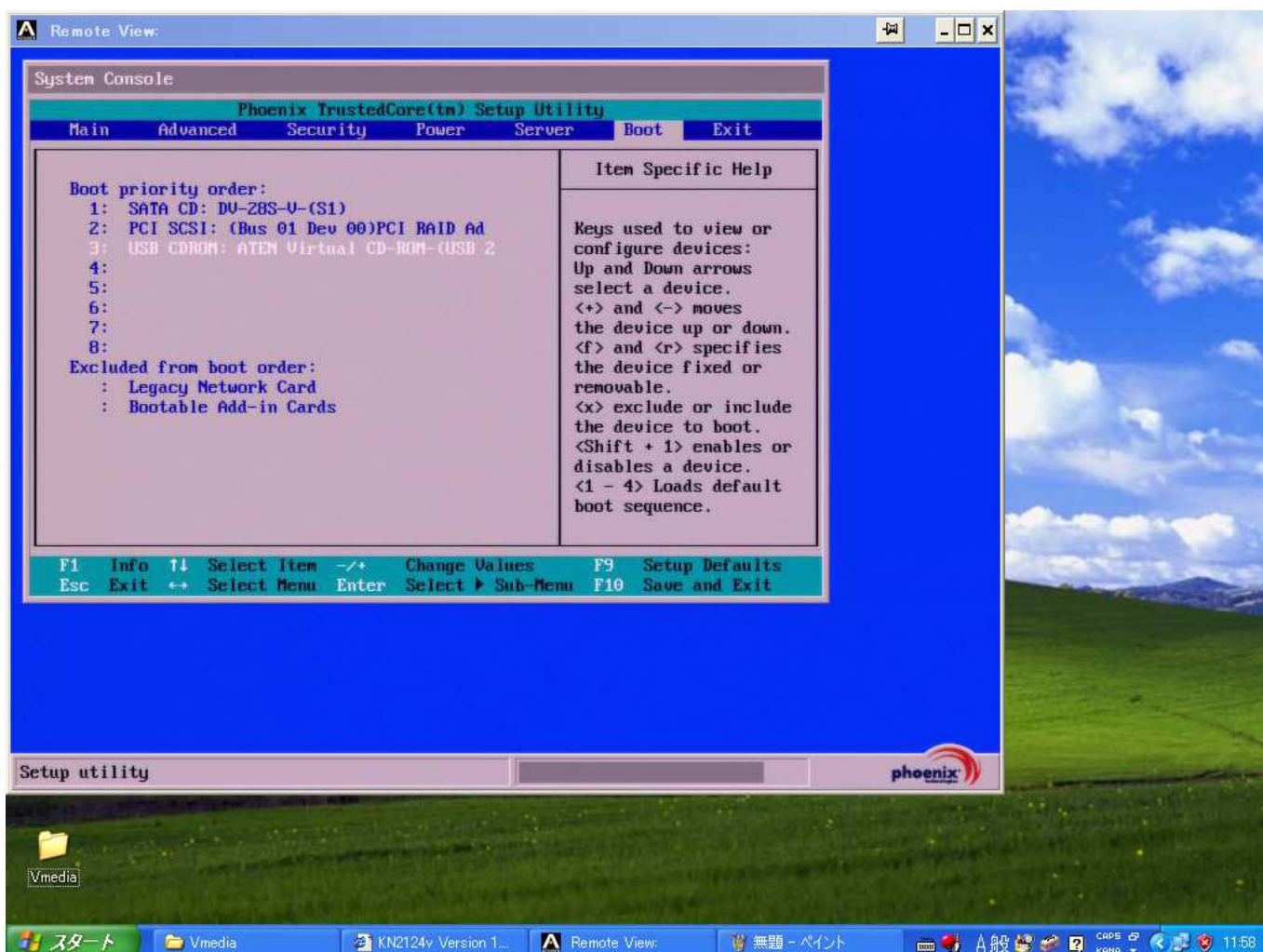
各サーバに対して、KVM ドロワー側のタッチパッドと KVM スイッチ側に接続したマウスにおいて、OS デフォルトのドライバにより正しく認識し、正常動作することを確認致しました。

E) IP リモート操作時 (KVM 単体時/CC2000 経由時) の A)～D) 同上確認

IP リモート接続からの KVM 単体への IP リモート操作時および CC2000 経由においても、A)～D) は正しく動作しておりました。

また、VMware の vSphere を直接開くことなく、CC2000 内 vSphere のプラグインを使用し利用することが可能でした。

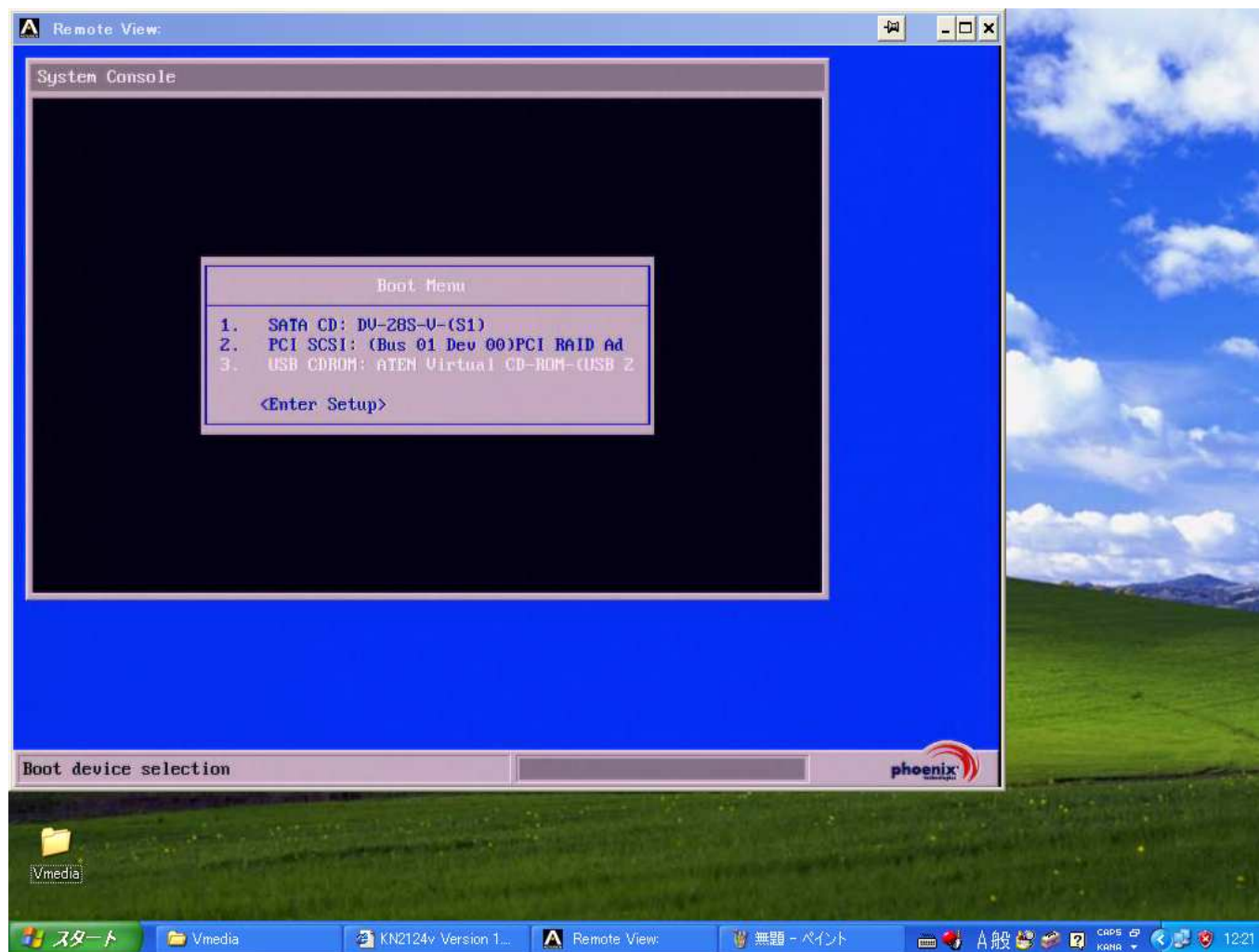
F) バーチャルメディアのマウント動作確認



[F2]キーを押して BIOS 画面を表示する。

『USB CDRM: ATEN Virtual CD-ROM』として認識しています。

Boot の項目に自動的に 3 番目に USB CDRM として割り振られています。ここで Boot の順番を 1 番上に移動して頂くことも可能です。



BIOS から出た後に[F12]キーにより Boot Menu 表示し、バーチャルメディアからの起動を実行させることも可能でした。

お問い合わせ先

ATEN ジャパン株式会社 技術部

〒116-0003 東京都荒川区南千住 3-8-4 ATEN ビル

Tel: 03-5615-5810 Fax: 03-3891-3810 Email: support@atenjapan.jp URL: www.atenjapan.jp

ATENジャパン株式会社
〒116-0003 東京都荒川区南千住3-8-4 ATENビル
TEL: 03-5615-5810 FAX: 03-3891-3810